

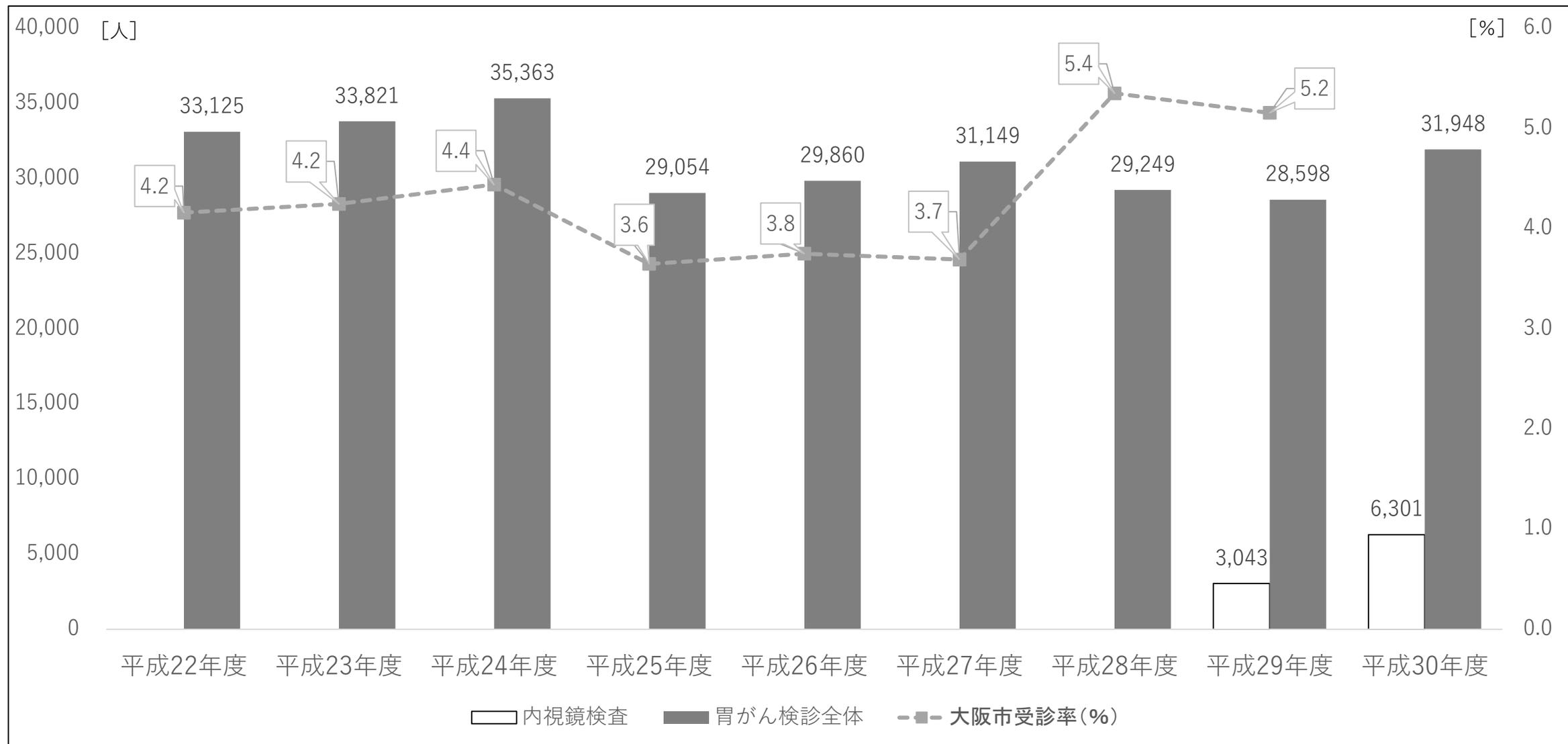
大阪市胃がん検診の状況について

	集団検診 ※エックス線検査のみ	個別検診 (取扱医療機関数)	
	実施回数	エックス線検査	内視鏡検査
平成27年度	227	397	
平成28年度	233	377	
平成29年度	233	362	95
平成30年度	233	333	111
令和元年度	233	308	117
令和2年度	171	296	116

大阪市胃がん検診の状況について

大阪市 胃がん検診受診者数および受診率の推移

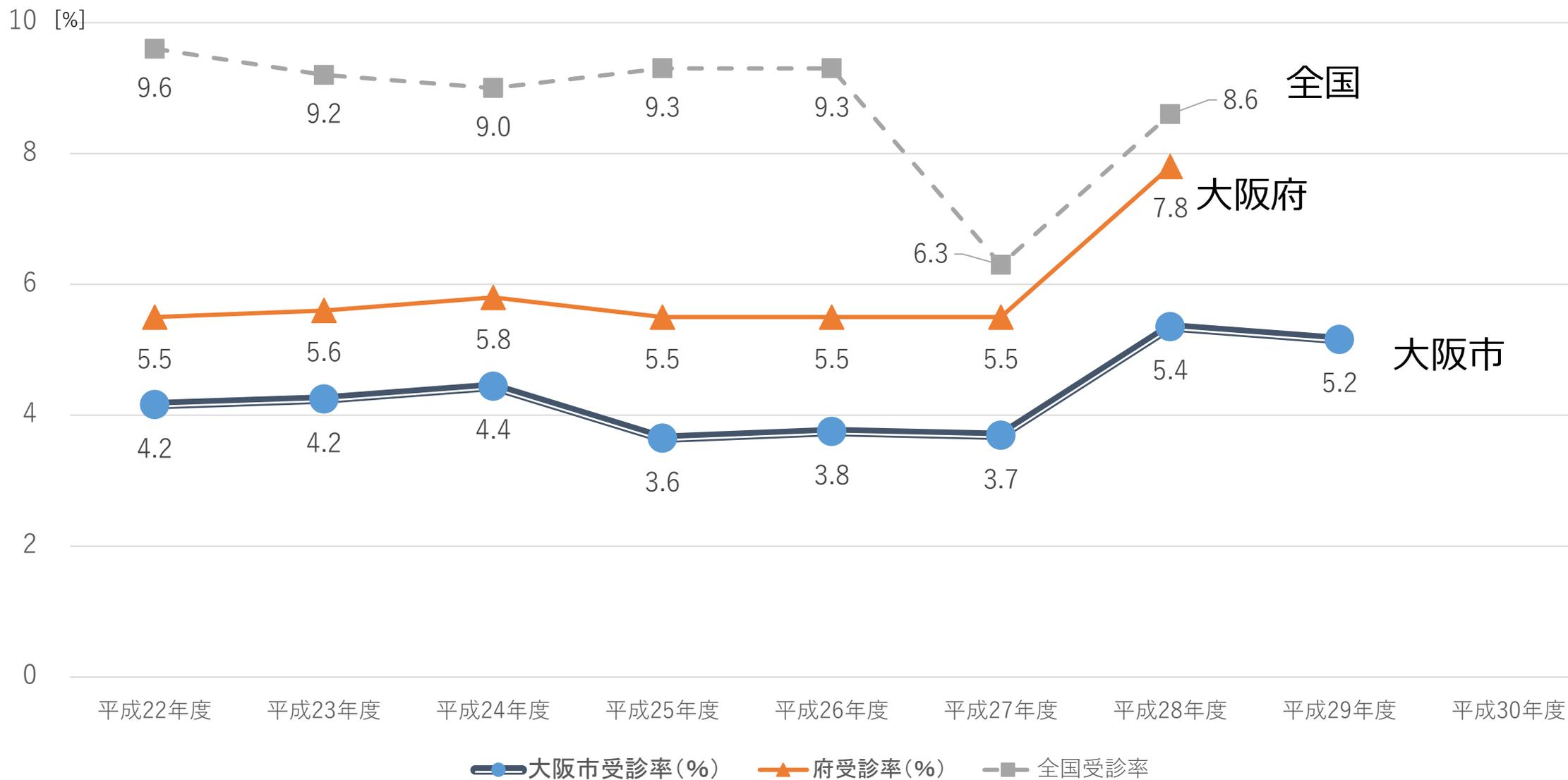
※内視鏡検査は平成29年10月～開始



※平成28年度集計分より内視鏡検査導入に伴い受診率算出式が変更されているため見かけ上受診率が上昇している

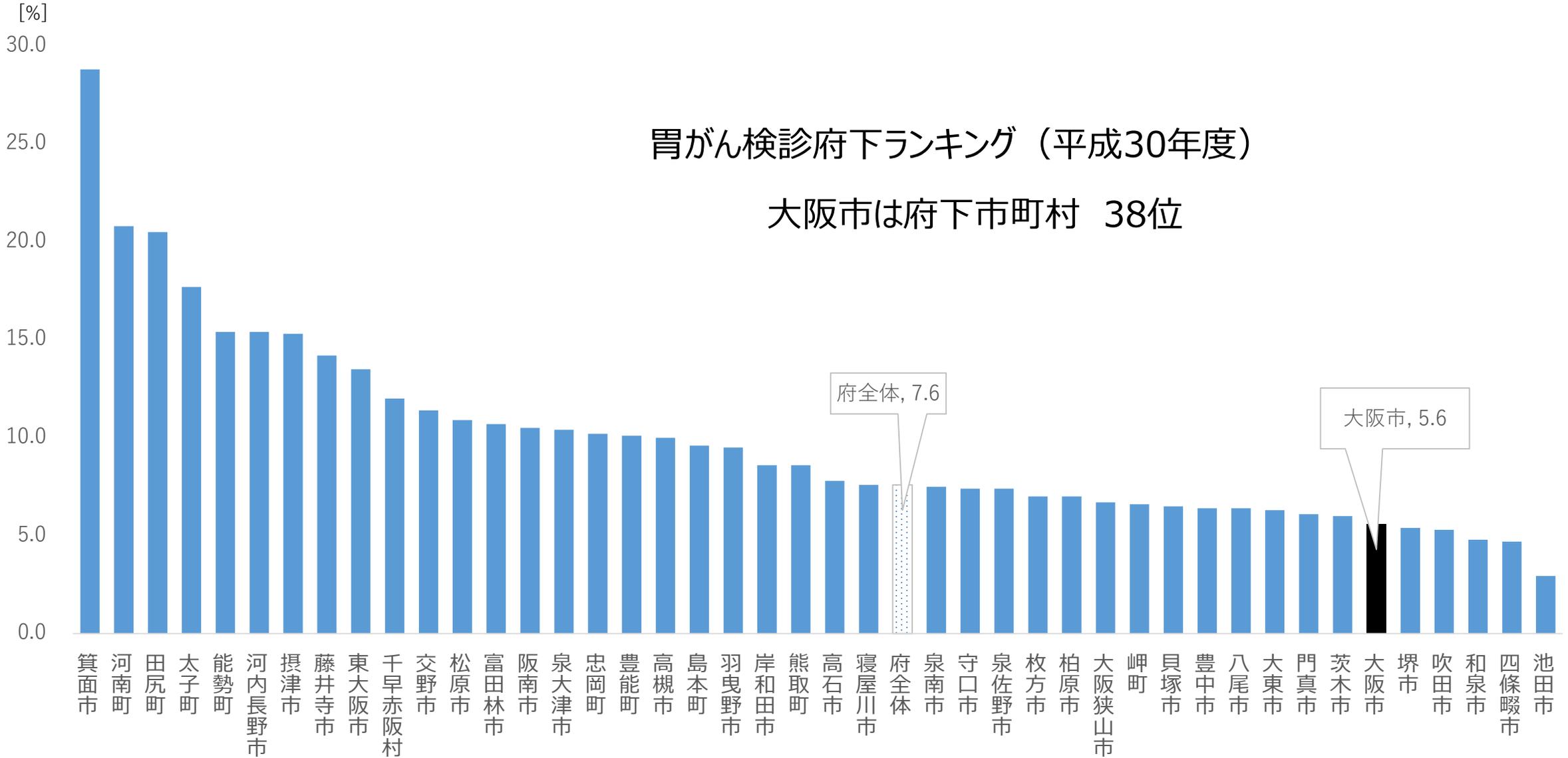
大阪市胃がん検診の状況について

胃がん検診受診率 <全国・府・市 比較>



※平成28年度集計分より内視鏡検査導入に伴い受診率算出式が変更されているため見かけ上受診率が上昇している

大阪市胃がん検診の状況について

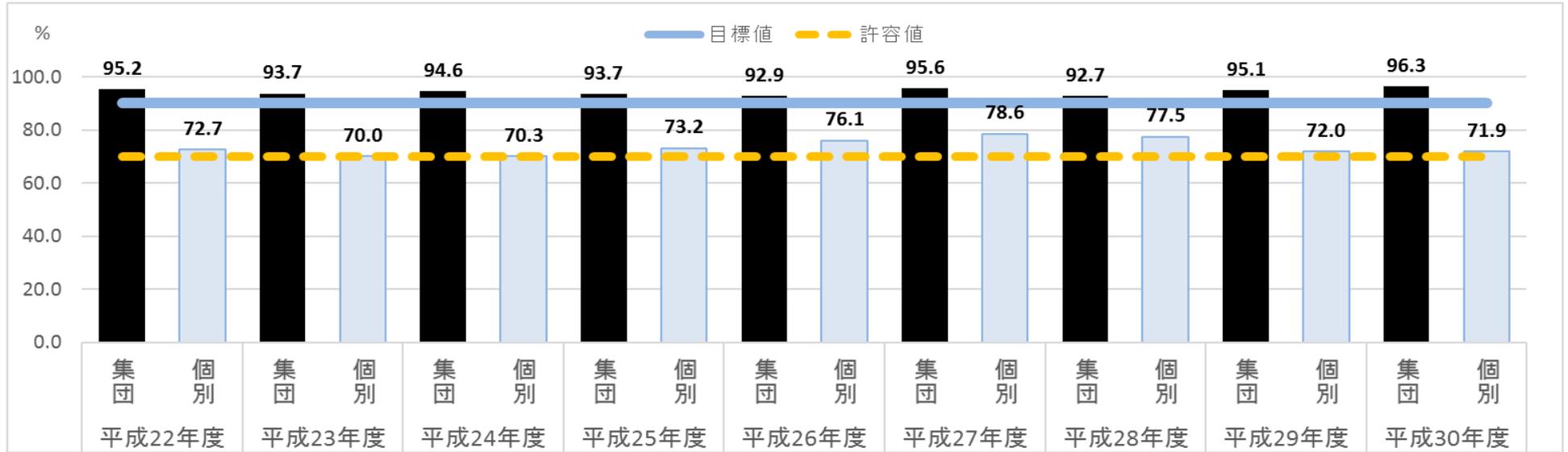


大阪市胃がん検診の状況について

胃部エックス線検査

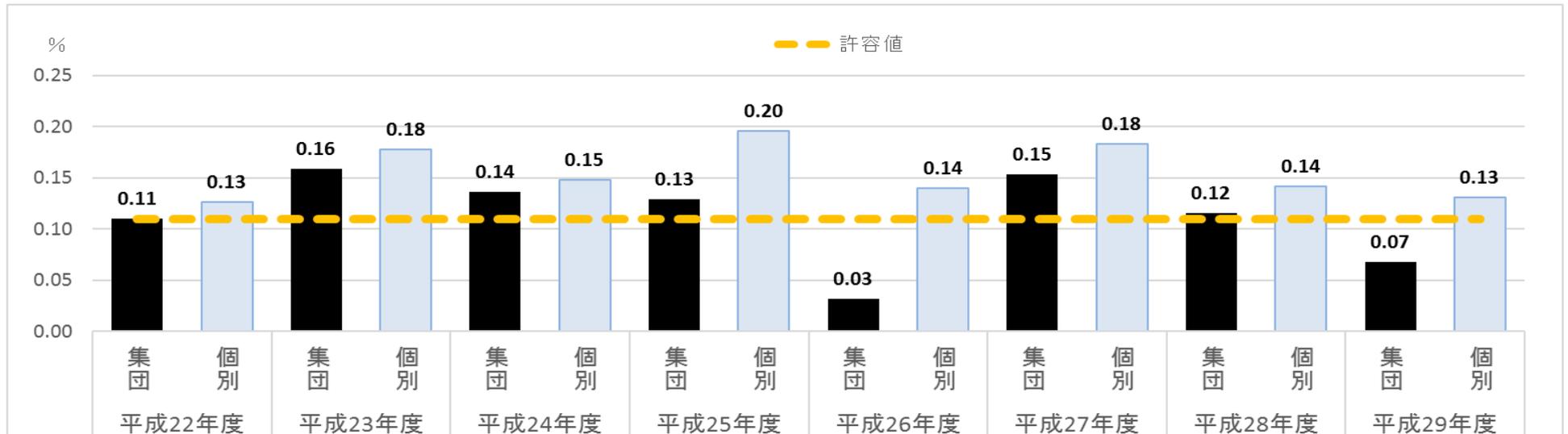
精密検査 受診率

目標値 90.0%以上
許容値※ 70.0%以上



がん発見率

許容値※ 0.11%以上



※「許容値」：最低限満たすべき数値

数値設定は「今後の我が国におけるがん検診事業評価の在り方について報告書 平成20年3月」による

大阪市胃がん検診の状況について

胃がん検診（内視鏡検査）

集計期間：平成29年10月～令和1年9月の2年間を集計

[人]

		総数			50歳代			60歳代			70歳代			80歳代		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
受診数		4,041	7,424	11,465	1,065	2,665	3,730	1,567	2,729	4,296	1,140	1,621	2,761	269	409	678
判定	胃がんなし（精検不要）	2,719	5,299	8,018	751	1,976	2,727	1,014	1,833	2,847	761	1,171	1,932	193	319	512
	胃がんなし（経過観察・要治療）	1,236	2,043	3,279	299	673	972	520	865	1,385	352	427	779	65	78	143
	要再検要精検	86	82	168	15	16	31	33	31	64	27	23	50	11	12	23
要精検者	生検あり（一次検診時）	787	925	1,712	185	285	470	303	340	643	242	237	479	57	63	120
	WC要再検 ^{※1}	9	9	18	5	2	7	2	6	8	2	0	2	0	1	1
生検実施率		19.5%	12.5%	14.9%	17.4%	10.7%	12.6%	19.3%	12.5%	15.0%	21.2%	14.6%	17.3%	21.2%	15.4%	17.7%
要精検者合計 ^{※2}		802	944	1746	190	291	481	307	350	657	247	238	485	58	65	123
精検受診者数		790	934	1724	186	288	474	302	346	648	245	235	480	57	65	122
精検受診率		98.5%	98.9%	98.7%	97.9%	99.0%	98.5%	98.4%	98.9%	98.6%	99.2%	98.7%	99.0%	98.3%	100.0%	99.2%
がん（疑い含む）		38	26	64	2	3	5	19	7	26	12	12	24	5	4	9
がん発見率		0.94%	0.35%	0.56%	0.19%	0.11%	0.13%	1.21%	0.26%	0.61%	1.05%	0.74%	0.87%	1.86%	0.98%	1.33%

※1 検査医が「胃がんなし」、ダブルチェック医が「胃がん疑い」

※2 総合判定が「要再検」「要精検」、一次検診時に生検有り

生検率 目標 ～対策型検診のための胃内視鏡検査マニュアル～（抜粋）

導入時は、胃内視鏡検診の生検率は15%以下に留めるべきである。さらに、精度管理体制を整備することにより要生検率を10%以下にすることを目標とする。

(1) がん検診について

①がん検診の種類と基本的な考え方

(2) 大阪市胃がん検診の実施状況について

①胃がんの現状（罹患・死亡）

②大阪市胃がん検診の状況について

(3) 大阪市胃がん検診の今後について

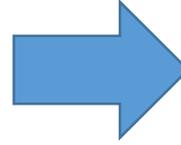
①大阪市胃がん検診の現状（課題）と対策

②大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

大阪市胃がん検診の現状（課題）と対策

現状（課題）

- ①国の指針、仕様を満たせていない
- ②低い受診率



対策

- ①質が担保された検診の実施
 - ・受診対象年齢、受診間隔の再検討
 - ・エックス線検査の仕様見直し
 - ・内視鏡検査について
 - ・精度管理指標向上に向けた方策検討
- ②低い受診率改善の方策検討

大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

- (1) 対象年齢
- (2) 受診間隔
- (3) エックス線検査の仕様（参加基準）
- (4) 内視鏡検査について
- (5) 精度管理向上に向けた方策検討
- (6) 低い受診率改善の方策検討

大阪市胃がん検診専門会議検討事項について

《検討内容①》 受診対象年齢について

- ・胃がんの罹患率、死亡率の高年齢化（過去との比較）
- ・大阪市胃がん検診での40歳代のがん発見数、要精検率（利益と不利益）
 - ①：40歳以上
 - ②：50歳以上

《検討内容②》 受診間隔について

- ・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」では、2年に1回。
ただし、エックス線検査に関しては年1回実施しても差し支えない。
 - ①：1年に1回
 - ②：2年に1回

《検討内容③》 エックス線検査の仕様（参加基準）について

読影	指針	原則として十分な経験を有する2名以上の医師
	仕様書に明記すべき必要最低限の管理項目	原則として2名以上の医師 （うち一人は日本消化器がん検診学会認定医）
撮影	指針	記載なし
	仕様書に明記すべき必要最低限の管理項目	日本消化器がん検診学会による研修を終了

大阪市胃がん検診の状況について（大阪市胃部エックス線検査仕様）

（再掲）

	指針	チェックリスト	大阪市（個別）	大阪市（集団）
対象年齢	50歳以上の者（胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない）		満40歳以上	満40歳以上
受診間隔	原則2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない）		年度中に1回	年度中に1回
撮影方法	「新・胃X線撮影法ガイドライン改訂版（2011年）」を参考にすること	日本消化器がん検診学会の方式	日本消化器がん検診学会基準（2011年発行）に順ずること	日本消化器がん検診学会基準（2011年発行）に順ずること
撮影技師		日本消化器がん検診学会による研修を終了 日本消化器がん検診学会認定技師		
読影	原則として十分な経験を有する2名以上の医師	原則として2名の医師（うち一人は日本消化器がん検診学会認定医）	十分な経験を有する医師	2名以上による二重読影 1名は日本消化器がん検診学会認定医を含む

大阪市胃がん検診の状況について（大阪市内視鏡検査仕様）

（再掲）

	指針	チェックリスト	大阪市（個別）
対象年齢	50歳以上の者（胃部エックス線検査については、当分の間、40歳以上の者を対象としても差し支えない）		満50歳以上
受診間隔	原則2年に1回（当分の間、胃部エックス線検査を年1回実施しても差し支えない）		2年に1回
実施	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考にすること	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考にすること	「対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル」を参考に行う
ダブルチェック		読影委員会によるダブルチェックを実施 専門医が複数勤務する場合は、相互チェックも代替方法とする	自施設でのダブルチェック 日本消化器がん検診学会認定医 あるいは日本消化器内視鏡学会 専門医 申告書
読影委員会		日本消化器がん検診学会認定医 あるいは日本消化器内視鏡学会 専門医	